

10 回生 田中芳樹さん (太良町出身)



人の命や人生を左右する仕事。

その責任を胸に。

1993年 4月 弘学館中学校入学
1999年 3月 弘学館高等学校卒業
1999年 4月 東京大学文科 I 類入学
2003年 3月 東京大学法学部卒業
2003年 4月 東京三菱銀行入行
2006年 9月 司法試験合格
2007年 12月 I T S 法律事務所設立

(2017年 12月現在)

波乱万丈な弘学館生活、 そして弁護士へ…

実はハメを外しすぎて厳しい指導を受けた経験もあります。その後は、担任の先生のご指導の下、心を入れ替えて勉強や生徒会活動に励みました。2年次には、文系に進み、その時、選択肢が広がる東大を目指すことに決めました。

卒業後は東京三菱銀行に勤めていましたが、8か月で辞め、弁護士になることを決意しました。「合法的に人の命を絶つことにも関わる職業」である弁護士。当然司法試験は簡単なはずがありません。1日に16、17時間は勉強しました。

仕事内容は、裁判での弁護だけでなく、弁護士会の会務、契約書のチェックなど様々です。また、破産管財人や、認知症の方の手伝いをする成年後見人の仕事もあり、現在の社会の変化に伴って業務の内容は多様化しています。

死刑制度について考える

元々法律というものは国民の意見を反映したものである必要があります。つまり、このことは弁護士だけが考えればいいという問題ではないのです。

冤罪であった場合には取り返しがつきませんし、「残虐な刑罰」ではないかという考えもあります。また、被害者側の気持ちも汲む必要があります。とはいえ、被害者の方や遺族の方でも、死刑を求めている方ばかりではないという側面もあります。代わりにどのような刑罰にするのか、終身刑と言っても、罪を犯した人の一生の生活の保障を税金で行うのか…？

考えなければならぬことはたくさんあります。難しい問題であり、国民の考えを問いながら、さらに丹念な議論が必要であることは間違いないでしょう。



新聞部の取材に応える田中さん

田中芳樹さんのとある一日

9:00 出勤

10:00 打ち合わせ

11:00 裁判(電話会議)

13:00 裁判に出廷

15:00 事務所にて報告書作成

17:00 打ち合わせ

20:00 帰宅

後輩へのメッセージ

A I や I o T の時代が早晚やってきます。それに備えて A I ではとってかわることが難しい部分の力をぜひ身につけてほしいです。論理的思考能力や、アートの力を磨くことも重要です。自分の感性を磨く時間をおろそかにしてはいけません。弁護士という職業は(目指している人が多いであろう医者という仕事も)他の人の「決断」に関わる仕事です。機械では為しえない「納得のいく決断」をしてもらえるような関わり方ができる人を目指してほしいと思います。